



※ “つるみん” 平成 26 年度第 38 回鶴嶺祭『ゆるキャラグランプリ』でグランプリを受賞。1 年 2 組小山田夏芽さん、鬼塚麻未さん（旧クラス）の作品で、その思い（願い）は、3 つ。・「世界中を飛んで、鶴嶺の名を広めている鶴」・「好きなものは笑顔と思いやり」・「鶴高生と協力して、世界中を笑顔にするのが夢」です。

3 年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。全員の幸せを心からお祈りします。
どんなことがあっても、苦あれば楽あります。自分だけと思わないでね。人を助ける心が自分を救います。
図書館は全国にあります。知識の宝庫です。本は助けてくれます。思い出してくださいね。

司書



◆漫画・源氏物語です。

◆忘れてはいけない！ 3・11 と地震関連の本です。

◆こんな本もあるよコーナーです。

今月のおすすめ本（司書 ver.）

『孤宿の人』上下巻 宮部みゆき【著】 新人物往来社【出版社】NDC.913.6 蔵書あり

宮部みゆきは、作家・上位クラスの天才肌です。時代物現代物もどれとも言えないですが、読み始めると夢中になります。ご紹介する本も読み終わるのがもったいない、でも、最後どうなるの？という逸品のおもしろさでした。

高校時代に読んだ本

4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 **3**

『人間の土地』

小さい頃、パイロットに憧れていた。仕事で世界中いろいろな場所に行け、飛行機も操縦できる。私は当時最新鋭の超音速旅客機・コンコルドに強い憧れを抱いており、いつかどうしても乗ってみたい。できなかったら、実際にコンコルドを操縦してみたいとさえ考えていた。結局、本物のコンコルドを見ることすらできなかったけれど。

『星の王子さま』の作者として有名なサン＝テグジュペリは、何度も飛行機事故を起こしたり遭難したりしながらも、空や飛行に対する憧れを抱き続けた作家である。『人間の土地』は、「定期航空」「僚友」「飛行機」「飛行機と地球」「オアシス」「砂漠で」「砂漠のまん中で」「人間」の八編の章で構成されている。サン＝テグジュペリは、定期便の職業飛行家として自分の体験をもとに、人間とはどんな存在なのか、人間の本来（本質）とは何かを、星と地球のあいだに探している。空から地球を眺めていたサン＝テグジュペリの視線で、本来（本質）は見えるところにあるわけではないが、遠くからでも感じられるという思想の根拠を示している。

第 7 章「砂漠のまん中で」と『星の王子さま』は、サハラ砂漠で遭難し、奇跡的に生還した体験をもとに書かれている。『星の王子さま』を初めて読んだ時、あまり心に響かないところもあった。『人間の土地』後に『星の王子さま』を読み返すと、「砂漠が美しいのは、どこかに井戸をかくしているから」、「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えない。かんじんなことは、目に見えない」などの言葉は、より深い意味を持つように感じられた。

命がけで空を飛んでいたサン＝テグジュペリの時代と違い（実際、彼は地中海上空で消息を絶っている）、今では安全に世界中を旅することができる。家に居ながらにしてインターネットで、モロッコからサハラ砂漠への旅も予約することもできる。らくだで旅して、砂漠でテントに泊まるそうだ。コンコルドに乗る夢はついに果たすことはできなかったけれど、私はいつかきつと、らくだの背中に乗って、ひろい砂漠をひとすじに砂丘を越えて行くつもりだ。途中オアシスに寄り、星と砂漠のまん中で、月夜を浴びる砂漠を見ながらテントで夜を明かすだろう。私は砂漠で何かを見つけられるだろうか。

『人間の土地』 サン＝テグジュペリ【著】 堀口大樹【訳】 新潮社【出版社】 英語科 K.U.